

バロック・ロココ

この時代の建築と画家はバロックかロココに分ける。音楽家はバロックか古典派に分ける。

バロック＝絶対君主の威光を体現する豪華・壮麗（荘厳）・絢爛 けんらん な傾向。

ロココ＝ルイ15世の宮廷を中心とする繊細・優美・技巧的な傾向。

1) 建築 <<頻出>>次の2例は確実に押さえよう。写真を見ておくこと。

①バロック様式＝【1: Versailles 1661-82 仏 /パリ郊外/ルイ14世 設計：マンサール 08成蹊  
1871年、プロイセン軍はここを占拠し、「鏡の間」でドイツ帝国の成立式典を行った。

②ロココ様式 ＝【2: Sanssouci 1745-47 プロイセン /ポツダム/フリードリヒ2世  
フリードリヒ2世の居城として機能。西翼はヴォルテールが一時期滞在した。外壁は明るい黄色で、シェーンブルン宮殿も黄色であるが、サンサーシ宮殿は平屋建て。

①②のいずれの様式とも言えないが、**シェーンブルン宮殿**（ウィーン）は有名で、ヨーロッパ最大の観光資産。 11Ch  
17世紀末からあったが、マリア=テレジア 位1740-80の時代に完成された。外壁は黄色（テレジア・イエロー）  
内部の部屋がロココ風。建物は、ウィーン「帝国様式」。(ウィーン風ロココ様式とも言う)  
旧ハプスブルク家歴代君主の離宮。ウィーン会議（1815）は実はここで開催された。

1762年、マリア=テレジアの娘マリー・アントワネットがここに滞在している時、6歳の神童モーツァルトが招待され訪れる。この時宮殿内で転んだモーツァルトをマリー=アントワネット（7歳）が助け起こしたところ、モーツァルトが「僕と結婚して」と幼いプロポーズをした、という伝説がある。

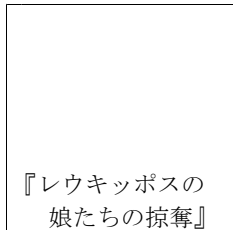
2) 絵画 だいたいにおいて17世紀はバロック様式、18世紀にはロココ様式の絵画が制作された。

バロック様式

【3:	】 El Greco スペイン 1541?-1614	『受胎告知』(1600?)
【4:	】 Rubens フランドル 1577-1640	『レウキッポスの娘たちの掠奪』(1618/19?) 『マリー=ド=メディシスの生涯』(連作)
【5:	】 Van Dyck フランドル 1599-1641	ルーベンスの弟子 イギリス王室に仕える 『狩猟服のチャールズ1世』(1635?)
【6:	】 Velazquez西1599-1660	スペイン王宮の宮廷画家 『ブレダの開城』(1600?) 『マルガリータ王女』(1659)・『女官たち(ラス・メニーナス)』
【7:	】 Rembrandt オランダ 1606-69	「光と影の画家」と呼ばれる 『夜警』(1642)
【8:	】 Murillo スペイン 1617-82	ベラスケスの弟子 『無原罪の御宿り』等多数の宗教画



『受胎告知』



『レウキッポスの娘たちの掠奪』



『ブレダの開城』



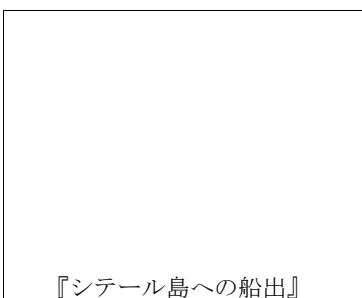
『夜警』

図説資料のコピー、自作イラスト等を上の端だけ糊付けしよう。(以下同様)

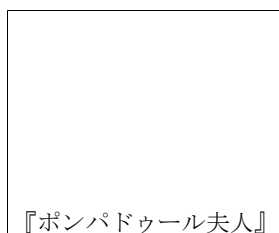
18世紀にはバロックの巨匠たちに替わって、ロココ様式の絵画が流行した。

ロココ様式

【9:	】 Watteau 仏 1684-1721	『田園の楽興』・『シテール島への船出』(1712-17)
【10:	】 Boucher 仏 1703-70	宮廷画家 『ボンパドゥール夫人』(1755)
【11:	】 Fragonard 仏 1732-1806	『ぶらんこ』(1766)・『森の中の教会』



『シテール島への船出』



『ボンパドゥール夫人』

ルイ15世の寵愛を受けた彼女の肖像画は無数に制作された。



『ぶらんこ』

《絵画史のその後の流れ》

18世紀末には古典主義→ 19世紀初め、ロマン主義、自然主義。  
19世紀中ごろ、写実主義。→ 19世紀後半には印象派

3) 音楽 **バロック音楽**は18世紀まで続き、その次はロココではなく**古典派音楽**である。1830年頃以降は**ロマン派**となる。「ロココ音楽」はほぼなかったと言っていいだろう。ただし、モーツァルトらに見られる装飾音符を多用した軽快・優美・繊細な音楽様式を音楽におけるロココ様式と呼ぶこともあるが、モーツァルトの楽曲をロココ音楽とは言わないだろう。

バロック音楽			
【12:	】	Vivaldi 伊 1678-1741	『四季』
【13:	】	Bach 独 1685-1750	《音楽の父》 <b>近代音楽の創立者</b> 子のクリスチャン=バッハも有名
【13:	】	Händel 独 1685-1759	『水上の音楽』・『メサイア』

古典派音楽 (= ドイツ古典音楽) (18世紀)			
【14:	】	Haydn オーストリア 1732-1809	《交響曲の父》 『驚愕』
【15:	】	Mozart オーストリア 1756-91	『フィガロの結婚』
後に古典派から <b>ロマン派</b> (1830年頃以降) への橋渡しの役を果たしたのは			
【16:	】	Beethoven 独 1770-1827	《楽聖》 交響曲『運命』・『田園』・『第九番』

4) 文学 1635年、ルイ13世の宰相リシュリューによって設立された**アカデミー=フランセーズ** (フランス学士院) はフランス語の研究、洗練、統一に力を入れていた。フランスではギリシア・ローマの優れた古典を模範とし、形式・格式を重視する**古典主義文学**が、17世紀絶対王政下、特にルイ14世時代に全盛期を迎える。後掲【17】【18】【19】は特に重要。イギリスではトマス=モア、シェークスピアなどのルネサンス文学に続いてピューリタン文学、風刺文学が栄えた。国語としてのフランス語、イギリス語が確立する契機を作った。古典主義文学と対比されるのは、18世紀のロマン主義の文学である。その先駆は、ドイツの『疾風怒濤』運動である。両者の時代の間に何があったか? もちろんフランス革命である。

フランス古典主義文学			
【17:	】	Corneille 仏 1606-84	悲劇 ルイ14世時代 『ル=シッド』
【18:	】	Racine 仏 1639-99	悲劇 ルイ14世の不興をかい引退。 『アンドロマク』
【19:	】	Moliere 仏 1622-73	喜劇 ルイ14世時代 『人間嫌い』『守銭奴』『タルチュフ』

市民層の成長の早かったイギリスでは、17世紀後半のピューリタン文学から小説へと発展した。

イギリス ピューリタン文学			
【20:	】	Milton 英 1608-74	『失樂園』 ピューリタン革命を支持、王政復古後に失明。
【21:	】	Bunyan 英 1628-88	『天路歷程』 ピューリタン革命に参加、王政復古後には投獄も。

イギリス 風刺文学 (18世紀)			
【22:	】	Defoe 英 1660-1731	『ロビンソン=クルーソー』 (1719)
【23:	】	Swift 英 1667-1745	『ガリヴァー旅行記』 (1726)
両作品とも航海を伴う貿易・植民活動を背景に書かれた。 市民の人気を博した作品は、彼らが生きた現実の社会を反映していることが多い。			

ドイツ 啓蒙主義 (18世紀)			
<b> Lessing</b>	独 1729-81	『賢者ナータン』 (劇詩) : 12世紀のエルサレムを舞台にユダヤの豪商 (賢者ナータン) とイスラーム世界の名君サラディンとの問答等。	
思想家・劇作家			
フランス古典主義からの解放を目指す			2001慶応 (誤選択肢として)
【24】【25】等に多大の影響を与えた。			

ドイツ『疾風怒濤』運動 (18世紀)			
【24:	】	Schiller 独 1759-1805	『群盗』 (1781) ・『ヴァレンシュタイン』 (1799) など
【25:	】	Goethe 独 1749-1832	『若きウェルテルの悩み』・『ファウスト』
19世紀 (厳密には1804年) 以降、両者は <b>ドイツ古典主義文学</b> を大成した。			

ベートーヴェンの交響曲第9番の中の『歓喜の歌』の原詩はシラーの詩『自由讃歌』